

「令和7年度全国学力・学習状況調査」の結果について

1 調査の概要

(1) 調査対象

小学校6年生の児童、中学校3年生の生徒

(2) 調査期日

令和7年4月17日（木）※中3理科4月14日（月）から4月17日（木）までの実施

(3) 調査内容

①教科に関する調査（国語、算数・数学、理科）下記 i, ii を一体的に問う。

- i 身に付けておかなければ後の学年の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ii 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

・学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査

2 教科に関する調査結果

1 大津町と熊本県、全国の平均正答率の比較

(1) 小学校 7校

《小学校》 6年生	大津町	熊本県	全 国
国 語	67.0	66.0	66.8
算 数	53.0	55.0	58.0
理 科	58.0	57.0	57.1

i 国語

対象児童数	大津町教育委員会	熊本県（公立）	全国（公立）
	372	14,759	936,137

分類		区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
				貴教育委員会	熊本県（公立）	全国（公立）
全体			14	67	66	66.8
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	2	73.9	77.2	76.9
		(2) 情報の扱い方にに関する事項	1	65.9	61.4	63.1
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	1	80.9	78.9	81.2
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	69.2	66.3	66.3
		B 書くこと	3	70.1	69.6	69.5
		C 読むこと	4	56.4	56.4	57.5
評価の観点	知識・技能	4	73.7	73.7	74.5	
	思考・判断・表現	10	64.3	63.3	63.8	
	主体的に学習に取り組む態度	0				
問題形式	選択式	9	64.2	63.5	64.7	
	短答式	3	76.6	78.3	78.5	
	記述式	2	65.2	60.6	58.8	

○ 全体では、熊本県と全国を僅差で上回った。中でも、「情報の扱い方」「話すこと・聞くこと」「書くこと」で県と全国を上回っている。記述式の「目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかを見る」問題で熊本県及び全国をいずれも5ポイント近く上回るとともに無回答率も低かった。

▼ 全国と比較し、最も大きく下回っている観点は、「思考力・判断力・表現力等」の「事実と感想、意見などとの関係を叙述をもとに押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握する」問題（－7.8ポイント）であった。

ii 算数

対象児童数	大津町教育委員会	熊本県（公立）	全国（公立）
	373	14,758	936,399

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
			貴教育委員会	熊本県（公立）	全国（公立）
全体		16	53	55	58.0
学習指導要領の領域	A 数と計算	8	56.0	59.7	62.3
	B 図形	4	52.3	53.4	56.2
	C 測定	2	50.5	52.7	54.8
	C 変化と関係	3	51.2	53.9	57.5
	D データの活用	5	57.1	59.7	62.6
評価の観点	知識・技能	9	60.2	62.9	65.5
	思考・判断・表現	7	43.1	45.4	48.3
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	6	59.8	63.5	67.2
	短答式	6	60.3	62.3	64.0
	記述式	4	30.6	32.2	34.9

○ 「平行四辺形の性質を基に、コンパスを用いて平行四辺形を作図する」問題について、全国及び県の正答率を上回った。

▼ 領域、観点のほとんどが全国、熊本県の平均正答率を下回った。

全国平均との差で5ポイント以上下回った問題が、8あるが、うち「知識・技能」が5つであり、10ポイント以上下回った問題は、「知識・理解」「角の大きさについてわかる」問題（－10.4ポイント）、「棒グラフから、項目間の関係を読み取る」問題（－10.3ポイント）「思考・判断・表現」の「数直線上で、1のメモリに着目し、分数を単位分数の幾つ分として捉える」問題（－10.0ポイント）だった。

iii 理科

対象児童数	大津町教育委員会	熊本県（公立）	全国（公立）
	373	14,748	936,576

分類		区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
				貴教育委員会	熊本県（公立）	全国（公立）
全体			17	58	57	57.1
学習指導要領 の区分・領域	A区分	「エネルギー」を柱とする領域	4	46.8	46.9	46.7
		「粒子」を柱とする領域	6	49.6	50.5	51.4
	B区分	「生命」を柱とする領域	4	56.4	52.8	52.0
		「地球」を柱とする領域	6	66.6	66.2	66.7
評価の観点		知識・技能	8	55.3	55.4	55.3
		思考・判断・表現	9	60.2	58.3	58.7
		主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式		選択式	11	53.8	54.2	54.7
		短答式	4	71.4	69.7	69.7
		記述式	2	53.6	46.4	45.2

○ 17問中5問が全国及び県の正答率を上回り、特に大きく上回ったのは、「思考・判断・表現」の「赤玉土の粒の大きさによる水のしみこみ方の違いをまとめたわけについて結果を用いて書く（記述）」問題（9.5ポイント）、「レタスの種子の発芽の結果から、気づきを基に見出した問題について書く（記述）」問題（7.4ポイント）だった。

▼ 県及び全国正答率との差は僅差である。最も差が大きかったのは、「知識及び技能」の「水が陸から海へ流れていくことについて、水の行方と関連付けているものを選ぶ」問題（－4.9ポイント）であった。

(2) 中学校 (2校) ※理科のみ I R Tスコアで比較 (500が基準)

《中学校》 3年生	大津町	熊本県	全 国
国 語	51.0	53.0	54.3
数 学	38.0	44.0	48.3
理 科	478 (※)	497 (※)	503 (※)

i 国語

分類		区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
				貴教育委員会	熊本県（公立）	全国（公立）
全体			14	51	53	54.3
学習指導 要領の 内容	知識及び 技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	2	42.0	46.1	48.1
		(2) 情報の扱い方に関する事項	0			
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	0			
	思考力、 判断力、 表現力等	A 話すこと・聞くこと	4	52.2	52.1	53.2
		B 書くこと	5	49.3	51.9	52.8
		C 読むこと	3	58.7	61.0	62.3
評価の観点	知識・技能	2	42.0	46.1	48.1	
	思考・判断・表現	12	52.6	54.2	55.3	
	主体的に学習に取り組む態度	0				
問題形式	選択式	8	61.1	62.0	63.9	
	短答式	2	67.4	72.1	73.6	
	記述式	4	22.9	25.8	25.3	

○ 「思考、判断、表現」B書くこと「ちらしに「会場図」を加えた目的を説明したものとして適切なものを選択する」問題、「スライドを使ってどのように話しているのかを説明したものとして適切なものを選択する」問題について、県、全国ともに若干上回った。

▼ 全国、熊本県の平均正答率を下回った中で、特に5ポイント以上下回った問題は3つあり、うち、「知識及び技能」の問題が、2つである。全国と比較し、最も下回ったのは「書くこと」の「手紙の下書きを見直し、誤って書かれている漢字を見付けて修正する」問題（－8.0ポイント）であった。

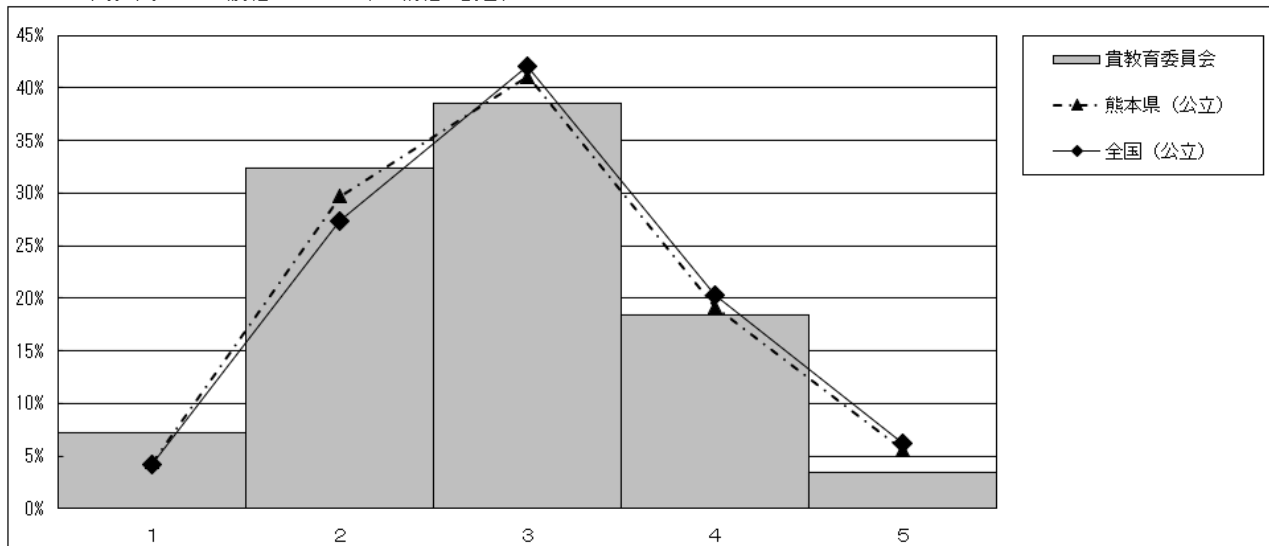
ii 数学

分類		区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
				貴教育委員会	熊本県 (公立)	全国 (公立)
全体			15	38	44	48.3
学習指導要領の 領域	A 数と式		5	30.6	37.9	43.5
	B 図形		4	38.4	42.7	46.5
	C 関数		3	40.3	46.4	48.2
	D データの活用		3	45.3	53.8	58.6
評価の観点		知識・技能	9	44.8	50.4	54.4
		思考・判断・表現	6	26.7	34.5	39.1
		主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式		選択式	3	44.0	49.2	54.0
		短答式	7	42.2	48.1	52.0
		記述式	5	27.2	35.3	39.6

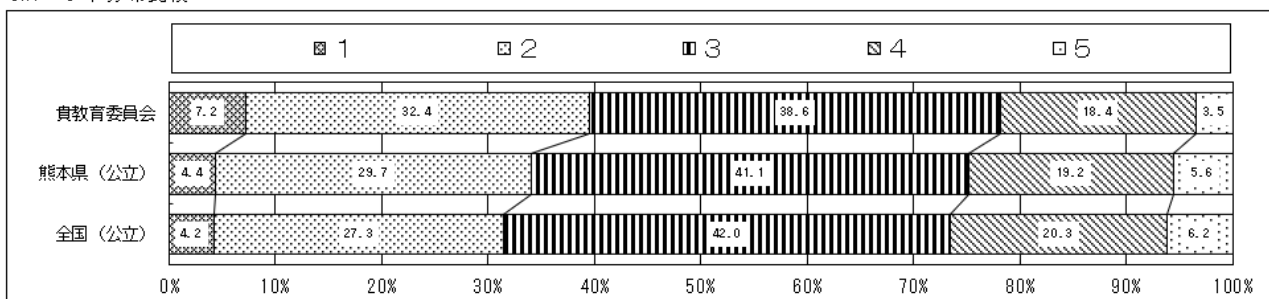
▼ 領域、観点のすべてが全国の平均正答率を下回った。全国と比較し、15問中14問が5ポイント以上下回り、うち7問が10ポイント以上下回った。「知識及び技能」の「1から9までの数の中から素数をすべて選ぶ」問題（－14.6ポイント）、「ハンドボール投げ結果の度数分布から相対度数を求める」問題（－15.4ポイント）、「思考・判断・表現」の「連続する三つの3の倍数の和が、9の倍数になることの説明を完成する」問題（－17.3ポイント）であった。無解答率が42.9%と最も多かったのが、「思考・判断・表現」の「A駅から60km地点に作られる駅の運賃のおおよそを求める」問題であり、記述問題への取組に課題があった。

iii 理科

IRTバンド分布グラフ（横軸：IRTバンド 縦軸：割合）



IRTバンド分布比較

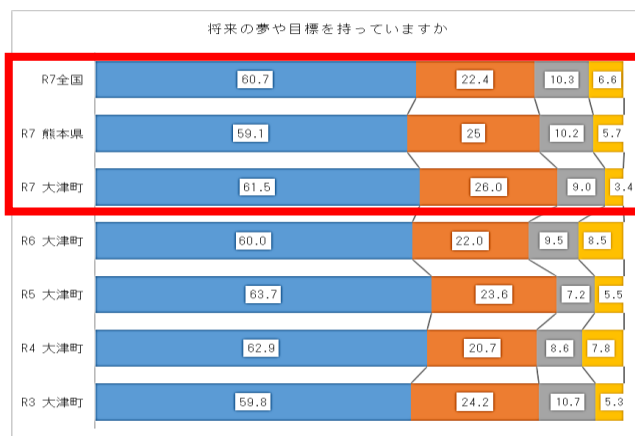


○正答率が全国と比較し10.1ポイント上回った問題は、「思考・判断・表現」の「地域の言い伝えを科学的に探究する学習過程において、大地の変化と地層の様子やその構成物に関する知識及び技能を関連付けて、地層の重なり方や広がり方を推定する」問題であった。

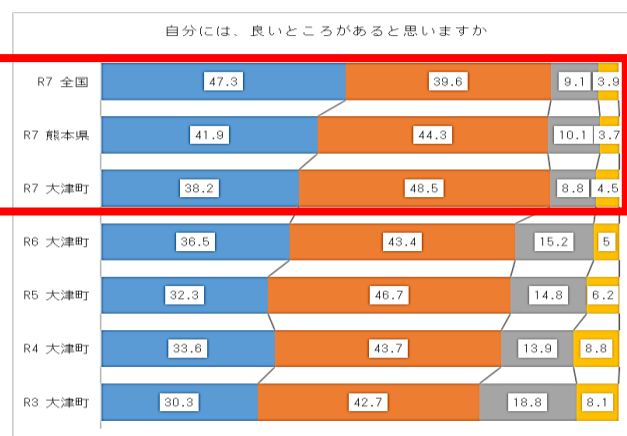
▼5ポイント以上下回った問題は5つあるが、最も正答率の差が全国と比較し大きかった問題は「知識及び技能」の「塩素の元素記号を記述する」問題（-11.7ポイント）であった。

3 質問紙による調査 (1) 小学校

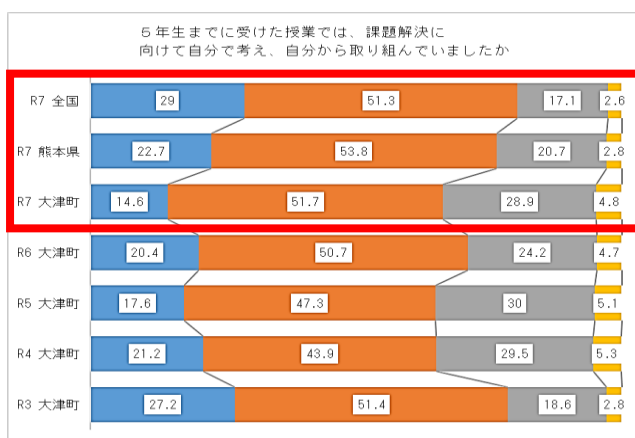
① 将来の夢 (キャリア教育)



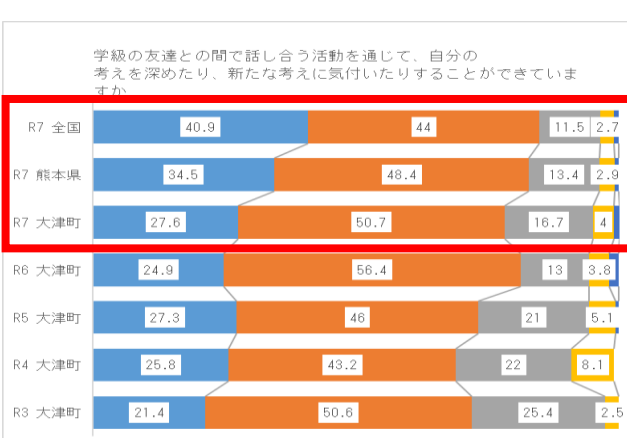
② 自己肯定感 (特別活動)



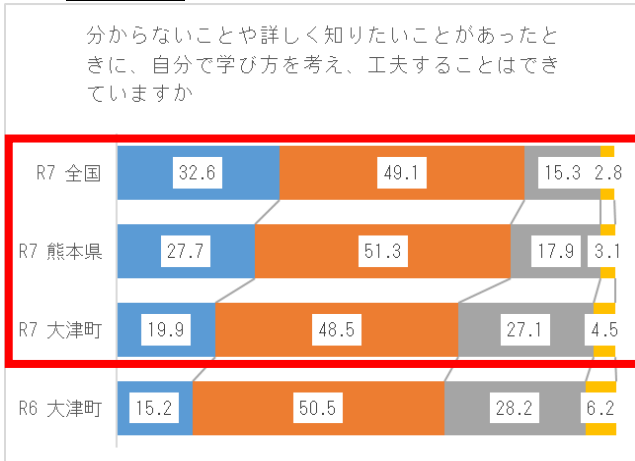
③ 主体的な学び



④ 対話的な学び、深い学び



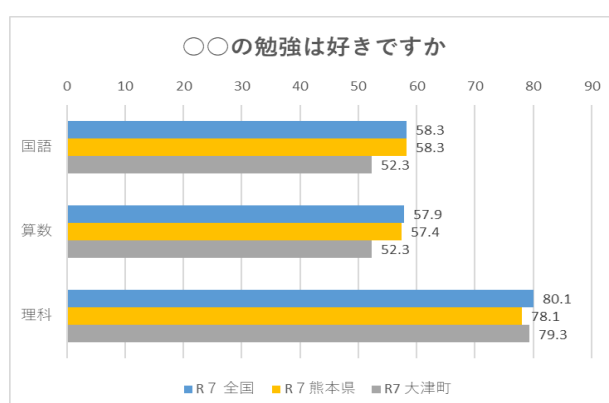
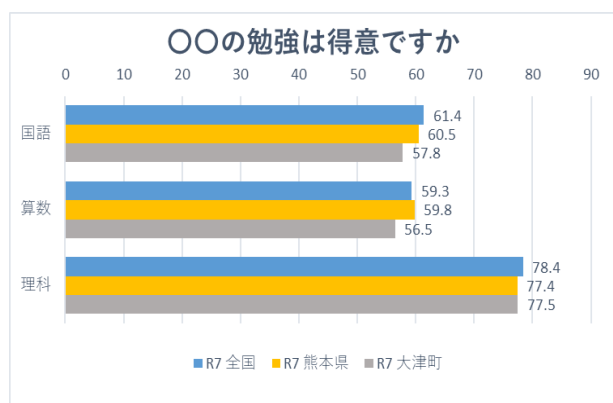
⑤ 自己調整

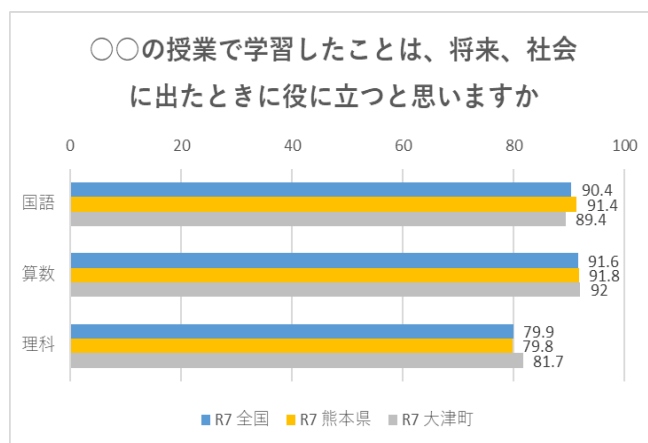
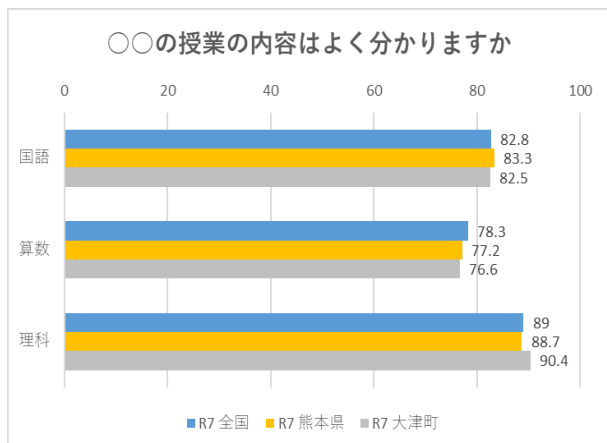


○将来の夢については、肯定的な回答が県や全国の数値を上回り、自己肯定感も若干上回っていた。

▼一方、主体的な学び、対話的な学び、深い学び、自己調整の部分で肯定的な回答が全国や県を下回ったものの、自己調整については肯定的な回答が若干増え、前年度を上回り意識の向上は見られる。

⑥ 教科の学習について (「当てはまる」+「どちらかといえば、当てはまる」)



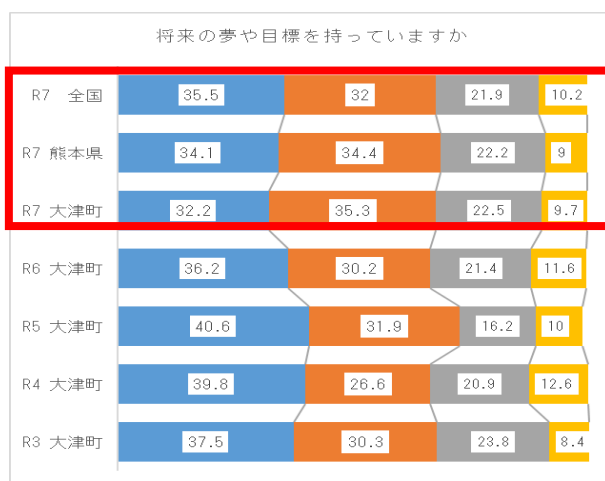


○理科についてはどの質問でも肯定的な回答が多かった。

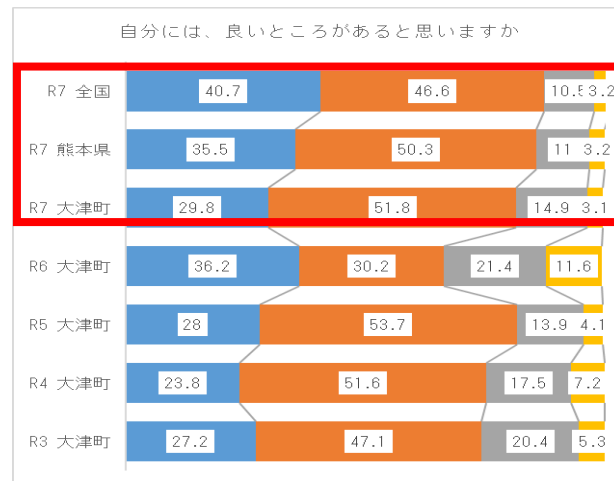
▼教科の「得意ですか」「好きですか」の質問は、どの教科も国や県を下回り、国語や算数で肯定的な回答が6割いかなかった。授業の内容が分かるかどうかについて肯定的な回答は8割近く、もしくは8割から9割である中、学習意欲については6割に満たないという課題が残っている。得意でもなく、好きでもないが、内容はわかっており、将来役に立つとは思っている実態から、自己調整の観点と関連付け、一層子どもが中心となる授業改善をしていく必要があると考える。

(2) 中学校

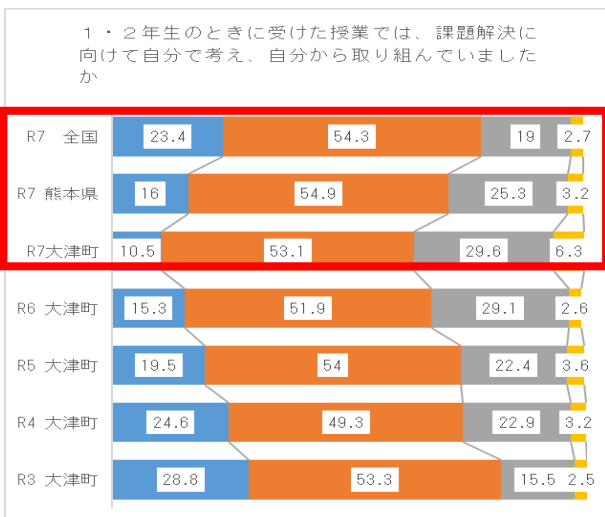
① 将来の夢 (キャリア教育)



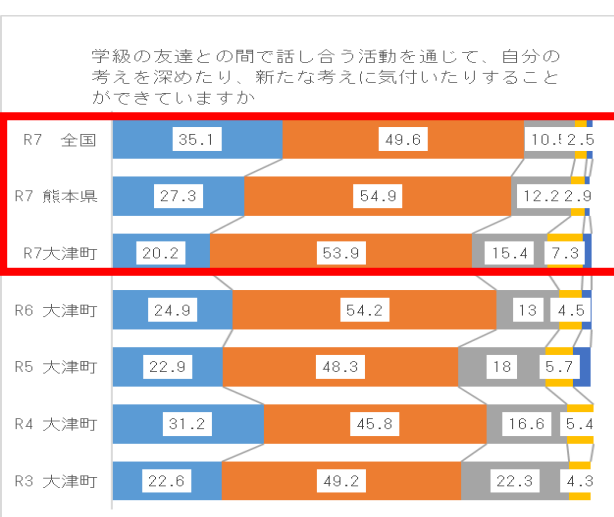
② 自己肯定感 (特別活動)



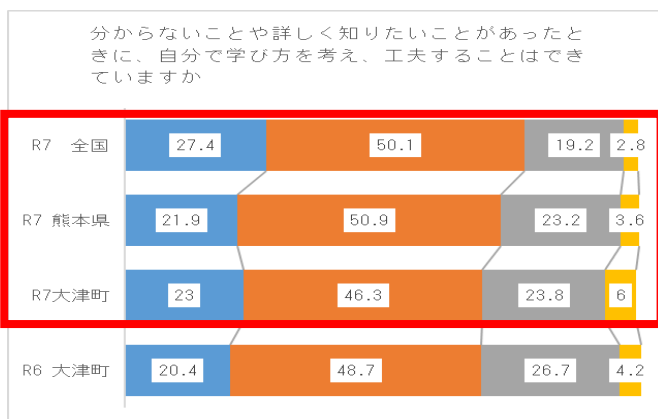
③ 主体的な学び



④ 対話的な学び、深い学び



⑤ 自己調整

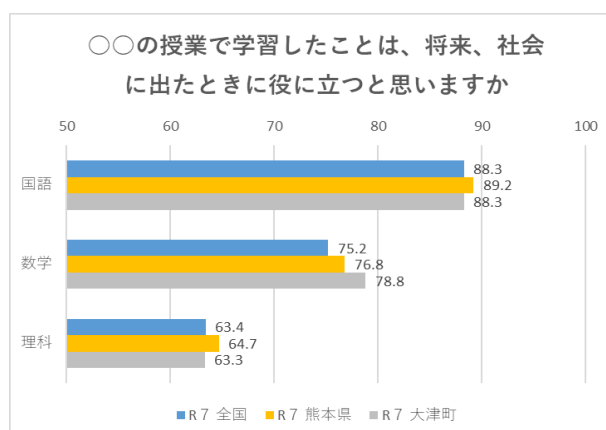
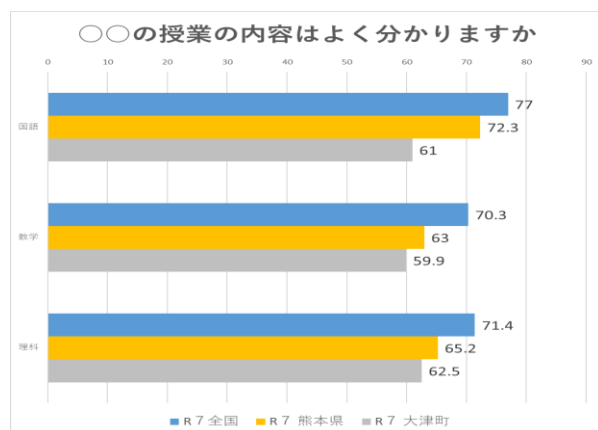
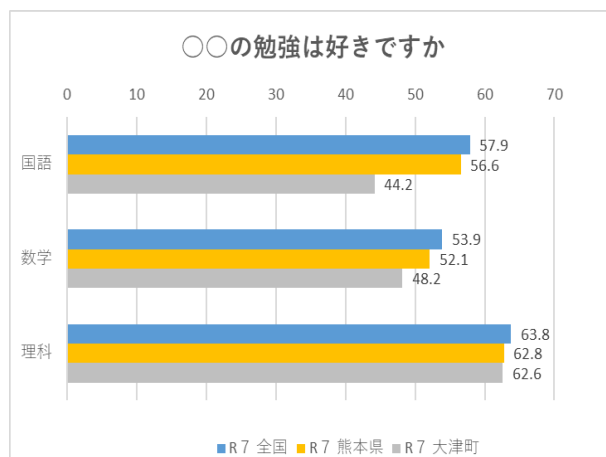
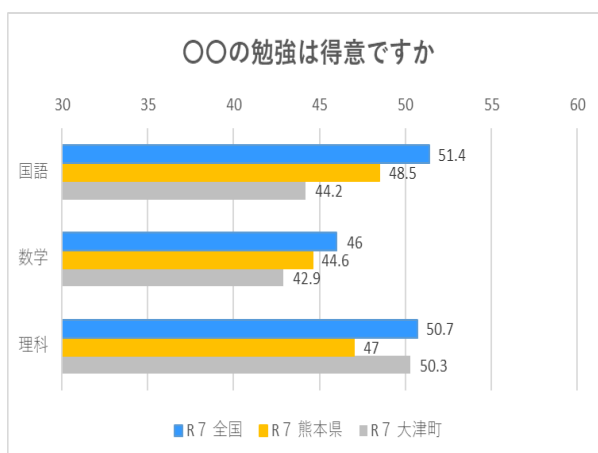


○自己肯定感については、昨年度より肯定的な回答が増えた。

▼将来の夢については、県や全国と大きな差がなかったが、他の項目については国や県の結果と比べて下回っており、前年度よりも肯定的な回答が減った。

▼自己調整では、昨年度と同様、全国や県を下回り、生徒自身が学び方を考えたり、工夫したりする点に課題が残った。

⑥ 教科の学習について（「当てはまる」＋「どちらかといえば、当てはまる」）



▼国語を「得意」「好き」という肯定的な回答が低く、授業の内容が分かるとの回答も、6割にとどまった。一方、国語が将来役に立つと考えている生徒は多い。

▼全体的に、県や全国と比較し肯定的な回答が少ないところ、「分かる」という回答が6割程度であることを考えると、学んだことが役に立つという経験につながる授業改善、一人一人が分かったという実感に伴う理解と表現の繰り返しの取組を通して、一層意識の向上を図る必要があると考える。